一般質問

一般質問とは、議員が町の現在の施策、将来の考え方や説明を町長などに求め、町民のための適切な町政運営を行っているかチェックするものです。

学校再編

高瀬（たかせ） 勉（つとむ）議員

なぜ、受益者負担を課すのか疑問です…

通学方法への保護者負担は

答弁 公平性の観点から受益者負担を求める

Q 学校再編等審議会から受けた短期再編計画に係る答申では、通学方法について「バス利用の負担は全額公費で賄うこと・保護者負担にならないようにする」となっていたが、実際の計画は一世帯当たり月額1000円の「受益者負担」を課すものとなった。その経緯・背景は。

A **学校教育課長**　現在、町内には自力や保護者の協力によって、より遠方から登校している児童がいます。このような現状の中で、スクールバスを利用する児童と利用しない児童間の公平性を総合的に判断し、「受益者負担」を求める通学方法の構築が必要と考えました。

Q 受益者負担として年額40～50万円程度の歳入が見込まれるが、おおむね年額90億円の財政規模にあって、今収入を「当て」にする必要は生じるのか。

A **学校教育課長ほか**　スクールバスの利用に係る保護者の一部負担金は、あくまで先の受益者負担の考え方によるものです。その収入を行政的に期待しているものとは捉えていません。

令和４年度から小川小に統合される東小川小。「負担」が少ない方法を！

跡地利用

笹本孝幸（ささもとたかゆき）議員

小川町のすばらしい自然を利用すべきでは

し尿処理場跡地で誘客を

答弁 コロナ禍で野外での活動が見直された

Q 嵐山町のバーベキュー場とキャンプ場はにぎわっているが、収益を把握しているか。

A **にぎわい創出課長**　平成29年度約8万5000人、令和元年度約7万3000人の来場者で、それぞれ約5300万円と約4000万円の収益です。

Q 小川町にもバーベキュー場やキャンプ場ができる場所はないか。

A **にぎわい創出課長**　現在、当町でバーベキュー場やキャンプ場を業務として行っている事業者はいません。腰中区切通橋下流、パトリアおがわ南側、下里一区でバーベキューやキャンプをしている方が多いです。

Q 下里一区のし尿処理場跡地は、キャンプ場として新たな集客の場となると思うが。

A **にぎわい創出課長**　日本の原風景のようですばらしいと思いますが、小川地区衛生組合の所有地なので、その理解、あるいは運営する民間団体や近隣住民の理解が得られれば、その可能性があるのかと考えています。

その他の質問

・東小川小学校、旧上野台中学校跡地利用について

下里地区にあるし尿処理場跡地とその河原を、新たな観光の目玉に。

地元の農家さんから畑を借りて、農作業をするとスッキリします！
（O・Yさん 31歳）

実家の片付けと、娘の家に一泊するのが、何よりの解消法です。
（S・Tさん 57歳）

P.7からのつづきです！

渋滞解消

井口亮一（いぐちりょういち）議員

安心・安全で移動の喜びを実感できるまちに

どうする交通弱者の安全は

答弁 高齢者や子供たちの安全確保は最重要

Q 新駅開業によって、町の役割や責任に変化は。

A **にぎわい創出課長**　交通渋滞解消に向けた企業の対策の一つとして、新駅が開設されたと考えています。

　また、「交通渋滞対策会議」を埼玉県・ホンダ・小川町・寄居町で組織して、渋滞解消の課題や事業について協議し、本田小川線バイパス、環状1号線の早期開通に向けた努力をしています。

Q 抜け道として、住宅地の生活道路に進入していないか。

A **防災地域支援課長**　高齢者や子供たちの安全確保は極めて重要であり、県や警察などの機関と対応していきたいと考えています。

Q スクールゾーンや生活エリアなどの区域指定や「交通安全のまち」宣言はできないか。

A **防災地域支援課長**　現在、交通安全の取り組みとして、交通安全隊や地域のボランティアによる見守り活動の実施及び安全の啓発を行っています。

　「交通安全のまち」宣言について、今後考えていきます。

R254バイパス高谷交差点の渋滞解消は町民みんなの願いです。

子ども

髙橋さゆり（たかはし）議員

コロナ禍でもあり、母子を孤独にさせないで

家庭総合支援拠点の進捗は

答弁 令和4年度設置に向け研究する

Q 児童福祉法等改正法が成立し、2022年度までに全市町村に虐待相談の拠点として、子ども家庭総合支援拠点の設置が盛り込まれているが、進捗は。

A **子育て支援課長**　支援拠点は、ソーシャルワークの機能を担います。今後、他自治体の状況や、子育て世代包括支援センターとの連携等を考慮し、研究していきます。

Q 虐待発生時、迅速・的確な対応をするには、専門職を増員し体制強化が必要と考えるが。

A **子育て支援課長**　対応件数が増加、内容も複雑化し対応に苦慮するケースも多くなっています。子育て支援課全体で連携し対応していますが、専門職の配置は大きな力になると考えます。しかし、職員の増員には、定員管理📖などの課題があります。

Q 専門職は人材が不足している。何かあってからでは遅い。子供の命を守り、職員の負担軽減にもつながるが。

A **町長**　職員の定員管理の中で、どのような対策が一番ベターなのか、人事担当と話し合いをしていきます。

様々な問題も子育て支援課全体で取り組んでいます。

📖 定員管理…持続可能な財政運営と安定した行政サービスの提供を図るため、職員数を適正に管理すること。

「断捨離」と「読書」です。ステイホームのお陰でブラッシュアップです！
（N・Iさん 66歳）

Mini Interview

P.10へつづきます！